

あ お も り

町村 自治

2022 **1** No.1233

令和 4 年

年 4 回 発行

編集・発行 青森県町村会

〒030-0801 青森市新町二丁目4番1号 TEL. 017-723-1331 FAX. 017-723-1347

HP <http://www.aomori-chousonkai.jp/>

新年のごあいさつ	2
令和3年産米の価格下落に係る緊急要望	4
風間浦村応援！まるごと弁当フェア	5
全国町村長大会	6
いまが旬！	10
随想 西目屋村長 桑田 豊昭	14



西目屋小学校 『収穫感謝祭』

にしめ やむら
西目屋村

西目屋小学校の伝統行事、「収穫感謝祭」は毎年12月に餅つきを行います。

餅つきに使用するもち米は、地域の方々のご協力のもと子どもたちが中心となり、学校田に5月に田植え、9月に稲刈りをして収穫しました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、餅つきは2学年ずつ時間をずらして行われ、周りの児童からの「よいしょー」と元気な掛け声に合わせて、子どもたちは力一杯お餅をついていました。



新春にあたり

青森県町村会長
全国町村会副会長

船橋 茂久

明けましておめでとうございます。

町村長をはじめ関係各位におかれましては、新春をお健やかに迎えることと心からお慶び申し上げますとともに、本会に対する御理解と御協力に感謝申し上げます。

現在、新型コロナウイルス感染症につきましたは、我が国の国民生活、経済活動に甚大な影響をもたらし、依然として感染再拡大の不安が続いています。コロナ禍での日常生活を一日も早く立ち直らせ、地域経済を回復・再生させるため、切れ目のない対策に取り組んでいくことが何よりも重要です。今後も、地域全体に希望が広がるよう、私たち町村は心をひとつにして、全力で取り組んで参ります。

また、昨年は私たちの「北海道・北東北の縄文遺跡群」が、ユネスコの世界文化遺産に登録されました。今後も、縄文遺跡群を次の世代に継承していきますとともに、この地を訪れる方々に感

あけましておめでとうございます

青森県町村会

会長 船橋 茂久

副会長 戸田 衛

同 濱館 豊光

理事 山崎 結子

同 吉田 満

同 平田 博幸

同 野村 秀雄

同 富岡 宏

同 松尾 和彦

監事 樋口 秀視

同 桑田 豊昭



動を与え、活力と魅力あふれる地域づくりにつなげていくことが重要だと考えております。

今後とも、我が国で進行する急速な少子高齢化や人口減少、また労働力不足や頻発する自然災害等に対応するため、我々町村は自主的・自律的に地域特性や資源を活かした様々な施策を展開し、コロナ禍においても豊かで安全安心な地域社会の実現と個性あふれる活力ある多様な地域づくりに邁進していかなければなりません。

そのためには、何よりも地方財源の安定確保が重要であります。本会といたしましては、今後も国に対し町村の命綱ともいふべき地方交付税をはじめとする一般財源総額の確実な確保をはじめとして、防災・減災対策や地域医療の充実、農林漁業等各種施策の振興対策等を強く求めて参ります。

今後も全国六番目の規模を誇る本県三十町村を大きな財産として、持続可能な地域社会と輝かしい未来の実現に向け、町村長相互の連携と調和をもち、県をはじめ全国町村会や関係機関と連携し、様々な活動を展開して参ります。

最後に皆様方の御多幸と町村の益々の発展を祈念申し上げ、年頭の御挨拶といたします。

謹んで新春のお慶びを申し上げます

顧問 工藤 祐直

同 吉田 豊

常務理事兼事務局長

原田 啓一
ほか職員一同

青森県市町村総合事務組合

管理者 船橋 茂久

青森県広報広聴協議会

会長 船橋 茂久

全国山村過疎地域振興連盟
青森県支部

支部長 山田 年伸

発電関係市町村全国協議会
青森県支部

支部長 松尾 和彦

令和3年産米の価格下落で 緊急要望を実施

■県に対する要望

本会は十月七日、市長会と合同で、県に対し令和三年産米の価格下落に係る緊急要望を実施した。

本会からは船橋会長をはじめ、戸田副会長、濱館副会長、平田総務厚生委員長、鈴木産業経済委員長が出席し、県からは三村知事など各関係部局長らが出席した。

はじめに船橋本会会長、小野寺市長会会長より、三村知



事に要望書が手渡され、続いて要望の説明があった。

三村知事からは、「県では、生産者が将来の展望をもって令和四年産の米づくりに取り組めるように、各地域県民局に米価下落に関する相談窓口を設置し、資金繰りや、来年度の作付け計画などの相談にきめ細やかに対応していきたい。今後、国に働きかけていくほか、県としても引き続き必要な対策を検討し、対応していきたい。」旨のコメントがあった。要望内容は下記のとおり。

■県関係国会議員・農林水産省への要望

本会を含む本県地方六団体は十一月九日、東京都内で県関係国会議員及び農林水産省に対して、米価下落を踏まえた水田農業の持続的な発展に係る要望活動を行った。要望活動には、本会船橋会長は

め六団体の代表が参加し、県関係国会議員及び金子農林水産大臣に面談のうえ、要望事項の実現を訴えた。

出席の県関係国会議員からは、「直接支払交付金、ナラシ対策等きちんとやっていきたい。」「生産調整について、全国で差が大きい」といった意見が出た。また、金子農林水産大臣からは、「米政策の再構築については、特別枠の結果や生産調整、農協の自己

改革の状況も検証しながら政策を進めたい。」などのコメントがあった。

要望項目

要望① 水田農業の持続的発展に向けた米政策の再構築
 要望② 生産コスト低減・作付転換対策の強化
 要望③ 輸出拡大に向けた対策の強化
 要望④ セーフティネット対策の推進

令和3年産米の価格下落に係る緊急要望（項目抜粋）

記

- 1 収入減少影響緩和交付金（ナラシ対策）及び収入保険について、可能な限り早期の支払いを行うとともに、生産者が各制度を有効活用できるよう、加入要件の緩和や補償範囲の拡大など、制度の充実について国に働きかけること。
- 2 令和3年産米の概算金大幅下落による減収に加え、肥料等の生産資材価格も高騰していることから、つなぎ融資への利子補給や来年产種子購入に係る費用への助成など、稲作農家の再生産に向けた支援対策を講じること。
- 3 本県の主力米である「つがるロマン」と「まっしぐら」の消費拡大を図るため、消費者ニーズを的確に捉えた販売戦略を一層強化・展開すること。また、「青天の霹靂」がけん引役として県内外における県産米全体の評価向上につながる取組も積極的に推進すること。併せて、酒造好適米である「花吹雪」、「吟烏帽子」の契約数量拡大を図るため、青森県産日本酒の需要及び販路拡大対策を講じること。
- 4 コロナ禍の下、国内の米の消費量減少が今後とも見込まれる中で、政府備蓄米の増枠や水田活用の直接支払交付金の制度の充実、及び機械、設備等購入費用への補助拡充により高収益作物等への転換を一層推進するなど、更なる需給対策を講じることにより、稲作農家が将来にわたって意欲と希望を持って、米の安定生産ができる環境づくりが図られるよう、国に働きかけること。
- 5 令和3年産米の概算金大幅下落による稲作農家の窮状に対し、町村独自で営農意欲を維持するための支援策を実施することとしており、これに対応して令和3年度の新型コロナウイルス感染症対応臨時交付金の更なる予算を確保するよう国に働きかけること。

令和3年10月7日 青森県町村会



金子農林水産大臣（中央）に要望

灯油価格高騰対策への財政支援を要請

本会は十二月二十四日、県に対し、灯油価格高騰対策に係る要望を実施した。

要望には船橋会長と戸田副会長が参加し、県からは、青山副知事、健康福祉部長らが対応した。

はじめに、船橋会長、戸田副会長から、青山副知事に要望書が手渡され、続いて船橋会長から要望の趣旨が説明された。

青山副知事からは、「本日の要望を重く受け止め、県としても、多くの市町村が実施できるように、皆様の取組に対

する財政的支援について、財源等を含め総合的に検討して参りたいと考えている。」旨のコメントがあった。

要望内容は左記のとおり。



灯油価格高騰対策に係る要望書

原油価格の上昇に伴い、本県の灯油価格は、12月13日現在、18リットル1,840円で、昨年同時期に比べ40.4%価格上昇しており、生活必需品である灯油価格の高騰は、地域住民の生活に大きな影響を及ぼしております。

これから本格的な寒さを迎える中、地域住民が安心して生活できるよう各町村では高齢者世帯、ひとり親世帯等に対する灯油購入費の助成などの支援を実施、及び検討を進めているところであります。

一方で各町村においては、長期化する新型コロナウイルス感染症対策への対応の中で、財政状況は依然として厳しい状況にあります。

つきましては、灯油価格の高騰を踏まえ、安定した住民生活の確保のため、県として、町村の灯油価格高騰への対策に要する経費について、負担軽減のための財政支援を緊急に実施していただくようお願いいたします。

令和3年12月24日 青森県町村会



はじめに

本会は、十月十五日から二十九日の約二週間にわたり、県共同ビル地下に店舗を構える新築菜（いなな）との共同企画で「風間浦村応援！まるごと弁当フェア」を開催しました。

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、本会では町村経済活性化のため、昨年来マイクロツーリズムの推進に取り組んでいます。

本フェアは、昨年一月〜三月に開催した「30町村まるごと弁当フェア」に続き、八月の大雨災害で特に甚大な被害を受けた風間浦村の食材を活用した弁当の開発・提供により、風間浦村への流動のきっかけづくりや、食材の消費拡大につなげることを目的とした試みです。

フェア期間中の概況

風間浦鮫鱈、スルメイカや

ふのりといった風間浦村の厳選された食材が盛りだくさんのお弁当を、当初予定していた各日限定三十食を六十食に倍増して、六百円で販売しました。



船橋会長と富岡風間浦村長による試食会

フェア開催に先立ち開催した、報道機関を招いての船橋会長、富岡風間浦村長による試食会が各報道機関で大々的に報じられたこともあり、フェア初日から連日お弁当を買いたい多数のお客様が訪れました。

本会ホームページでの毎日の情報発信、また期間中に地元紙に再度取り上げられたこともあり、全日程即完売御礼（全期間販売個数約六百六十個）により、大盛況のうち約二週間のフェアを終えるこ

とができました。

終わりに

今回の「風間浦村応援！まるごと弁当フェア」を成功裏に終えられたのも、ひとえに復興業務でご多忙の中、食材をご提供いただいた風間浦村の皆様のご支援、ご協力の賜物です。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

「風間浦村応援！まるごと弁当フェア」が県民の皆さんが風間浦村を筆頭に、身近な町村に足を運んでいただくきっかけや、県内30町村の食材の消費拡大と地産地消につながる一助になれば幸いです。本会としても、コロナ禍による影響や制約の中でも、引き続き、30町村を下支えするべく、様々な試みに積極的に取り組んで参りたいと思っております。



全国町村長大会・全国町村会

創立百周年記念式典が開催される

■全国町村長大会

全国町村会は十一月十七日、東京都のホテルニューオータニで全国町村長大会を開催した。大会には、都道府県町村会正副会長及び事務局長など約四百名が出席した。

大会では、荒木全国町村会長（熊本県嘉島町長）があいさつし、「私たちがコロナか



ら学び、コロナ後社会に向けて行動するうえで、東京一極集中の是正は、避けて通れない課題である。『地方分散型の国づくり』を強力に推進するとともに、感染症や大規模災害等に的確かつ柔軟に対応し、将来にわたり持続可能で『安全安心な地域社会』を再構築していかななくてはならない。」と参加者に訴え、引き続き、岸田内閣総理大臣など

の来賓あいさつがあった。この後、議事に入り、町村行財政をめぐる諸問題解決に向けた十六項目の決議のほか、全国的な防災・減災対策、国土強靱化の推進については緊急決議として上程され、安全安心な地域社会の再構築と地域経済の回復・再生に関する特別決議が満場一致で決定された。さらに三十四項目の大会要望も一括採択された。

■全国町村会

創立百周年記念式典

全国町村会は、大正十年（一

九二一年）の創立から百年の節目に当たり、十一月十七日、東京都のホテルニューオータニで創立百周年記念式典を開催した。式典には、来賓として内閣総理大臣代理の磯崎内閣官房副長官、金子総務大臣、各都道府県町村会正副会長など二百名が出席した。

はじめに、荒木全国町村会長が式辞を述べ、続いて、汐見副会長・会長代行（京都府井手町長）が宣言文を読み上げ、満場一致の拍手・賛同のもと「全国町村会創立百周年

宣言」を行った。

その後、町村自治の振興発展に多大な貢献をした方々に対する感謝状の贈呈に移った。感謝状は、第二十代全国町村会長を務めた藤原忠彦氏（前長野県川上村長）、町村自治の振興発展に寄与した大森彌氏（東京大学名誉教授）、神野直彦氏（同）、生源寺眞一氏（福島大学食農学類長・東京大学名誉教授）に贈呈され、その四名からは全国町村会及び全国の町村に対する応援メッセージがあった。

県選出国會議員と

意見を交わす

省での要請活動に参加し、佐藤副大臣、伊原医政局長、土生老健局長らに面談のうえ、要望書を提出した。

県選出国會議員と本会正副会長との懇談会を、令和三年十一月十六日に東京都のホテルニューオータニで開催した。懇談会は大島前衆議院議長を招き、江渡衆議院議員はじめ県選出国會議員七名及び船橋会長、戸田・濱館両副会長等が出席した。

最初に船橋会長から米価下落対策について本県町村の現状を説明し、需給及びセーフ

ティネット対策への対応や地方創生臨時交付金の配分について支援を求めた。また、八月の大雨で被害を受けた風間浦村の復興支援として開催した「風間浦村応援！まるごと弁当フェア」など、本会が昨年からは実施しているマイクロツーリズム事業の取組について説明した。

各国会議員からは、本会会長からの要請への考えや現在の国政の状況等について報告があったほか、正副会長等と町村の課題等について意見交換を行った。

船橋本会会長が 厚労省へ要請活動

全国町村会

全国町村会は、令和四年度政府予算編成を控え、正副会長が十一月十七日の全国町村長大会で採択した決議、特別決議・緊急決議及び全国町村長大会要望の実現方について、自由民主党、総務省、厚生労働省、農林水産省、環境省に対し、実行運動を行った。

船橋本会会長も、全国町村会の副会長として、厚生労働



土生老健局長（中央左）に要望書を提出する本会船橋会長（全国町村会副会長）

令和二年年度の決算を認定

県市町村総合事務組合

県市町村総合事務組合は、十月八日、青森市の県共同ビルで第二回組合議会定例会を開催した。出席者は船橋管理者をはじめ議員等の市町村長十名。

定例会では、議案四件を審議し、それぞれ原案通り承認・決定した。

○議案第一号 令和二年度青森県市町村総合事務組合一般会計歳入歳出決算の認定を求めるの件
 歳入総額六億三千四百六十四万四千余円に対して歳出総額六億二千四百八十九万九千余円で、歳入歳出差引額千四百五十五万五千余円。このうち五百四十万円を財政調整基金に繰り入れる。

○議案第二号 令和二年度青森県市町村総合事務組合市町村税等滞納整理特別会計歳入歳出決算の認定を求めるの件
 歳入総額六千九百三十八万七千余円に対して歳出総額六千七百五十三万三千余円で、歳入歳出差引額八百六十二万八千余円。このうち四百四十万円を財政調整基金に繰り入れる。

○議案第三号 令和三年度青森県市町村総合事務組合一般会計補正予算（補正第一号）案
 青森県市町村総合事務組合一般会計の各事業における前年度繰越金を、財務調整基金に積み立てる。

○議案第四号 令和三年度青森県市町村総合事務組合市町村税等滞納整理機構特別会計補正予算（補正第一号）案
 今後の収支の精査に基づき、市町村負担金を減額し、基金繰入金及び前年度繰越金を増額する。

令和四年度 法令外負担金を審査

負担金等委員会

本会は十月二十五日、青森市の県共同ビルで負担金等委員会を開催した。出席者は船

自治功労者の 推薦等を決定

第4回理事会

本会は十月二十五日、青森市の県共同ビルで第四回理事会を開催した。出席者は船橋会長をはじめ役員町村長十二人。

理事会では、全国町村会表彰規程による自治功労者の推薦など二件の事項を協議した。

協議事項は次のとおり。

協議事項

○全国町村会表彰規程による自治功労者の推薦について
 自治功労者として町村長四名を推薦する。

○青森県町村会表彰規程による被表彰者について
 自治功労者として町村長三名、他百二十八名を被表彰者とする。



橋会長をはじめ委員の町村長十八人。

本委員会は、各町村の非常に厳しい財政状況の中、財政

をさらに圧迫する法令外負担金等の負担内容を明確化し、町村行財政の安定と効率的運営を図るため開催するもの。

令和四年度の法令外負担金規制団体は四十四団体（対前年度比 同数）で、総額九千六十三万七千三百三十円の回答があり、審議の結果、令和四年度の負担金額は、各団体から提出があった負担金額どおり決定した。

また会議では、各法令外団体は新たな視点で目的や事業の抜本的な検討・協議が必要であるとの認識の下、各法令外団体に対し、次の事項を申し入れることとした。

一. 経費節減や予算における繰越金等を含めた団体運営のあり方について常日頃から見直しをし、町村負担金の減額に努めること。

二. 町村負担金は、本会の決定額を上限とし、事業費等の増額に連動し町村負担総額を増額しないこと。

三. 会員市町村数等の減少に伴い、均等割負担金を増額しないこと。また、賦課基準とする数値が減少した場合は、現行の町村負担金を維持するため、賦課基準の単価を増額しないこと。

四. 他団体と統合した団体においては、統合に伴う事務運営の効率化により町村負担の軽減を図ること。



町村長選挙結果

今別町長

なかじま
中嶋

ひさあき
久彰氏



任期満了に伴う今別町長選挙は、十月三日、投票票が行われ、現職の中嶋久彰氏（66）が再選を果たしました。（略歴）町商工会会長、町消防団副団長

蓬田村長

くじ
久慈

しゅういち
修一氏



任期満了に伴う蓬田村長選挙は、十月二十六日、告示され、現職の久慈修一氏（71）が無投票で三選を果たしました。（略歴）村建設課副参事、村議会議員

鱒ヶ沢町長

ひらた
平田

まもる
衛氏



任期満了に伴う鱒ヶ沢町長選挙は、十一月三十日、告示され、現職の平田衛氏（62）が無投票で再選を果たしました。（略歴）鱒ヶ沢病院事務長、町政策推進課長

地元や地域を巡る マイクツーリズム を実践

町村長行政調査研修



本会は、十一月四日、五日、西北津軽郡内の各町村を訪問先とする行政調査研修を実施し、研修には二十五人の町村長が参加した。

昨年度の本研修は、新型コロナウイルス感染症が県内で急激に感染拡大したため、やむを得ず直前で中止したところである。全国的に新規感染者数が減少傾向にある中、今後の社会経済活動の維持と再生に向け、県内町村での地方創生、水産振興、六次産業化などの取組事例、優良事例を調査・研修するため、鱒ヶ沢町、深浦町、鶴田町、中泊町の四町村を訪問した。

■鶴田町では、「鶴の舞橋観光施設（ここにもあるじゃ）」を訪問。同施設は、国の地方創生拠点整備交付金を活用し、町が総事業費三億八千万円余をかけ整備、令和二年四月にオープン。売店やフードコー



鶴田町「ここにもあるじゃ」を現地視察

トを備え通年利用できる新たな観光拠点では、副町長らから施設の概要などについて説明を受けた。

■深浦町では、町岩崎支所で「サーモン養殖事業の取組み」をテーマに、養殖事業を手掛ける日本サーモンファーム株式会社の鈴木代表取締役が説明。今季の生産が約千二百ト



深浦町でサーモン養殖事業の説明を受ける

ン、出荷額が十億円を超える見込みなど日本一の規模を誇る養殖事業の取組経緯や体制づくり、進捗状況など説明を受けた。説明後、一行は大峰川の中間養殖場に移動し、現地視察を行った。

■中泊町と鱒ヶ沢町では、「ご当地グルメの取組」として、「中泊トマト海鮮ラーメン」と、「鱒ヶ沢町ヒラメのツケ井」を美食。今年三月から中泊町内四店舗で販売されている「トマ鮮ラーメン」取扱店「くつろぎダイニング哲。」では、濱館町長が食を通した地域振興などについて説明。また、鱒ヶ沢町「水軍の宿」では、鱒ヶ沢町の名物グルメ、鮮度抜群の「ヒラメのツケ井」を味わった。



中泊町で「トマ鮮ラーメン」を美食

令和4年 町村長の任期満了日

令和3年12月22日現在
(青森県選挙管理委員会HPより抜粋)

町村名	任期満了日
南部町	2月11日
おいらせ町	3月25日
佐井村	4月26日
六ヶ所村	7月6日
大鰐町	7月21日
鶴田町	8月20日



階上町長

荒谷 あらいや

憲輝 のりあき

氏

任期満了に伴う階上町長選挙は、十二月十九日、投票が行われ、新人の荒谷憲輝氏(51)が初当選を果たしました。
(略歴) 町議会議員

青森県町村長等名簿

令和4年1月4日現在
町村数30町村(22町8村)

町村	区分	町村長氏名	生年月日	当選回数	任期満了年月日	副町村長氏名
東郡	平内町	船橋茂久	S24. 7.17	3	R 5.11.14	山田光昭
	今別町	中嶋久彰	S30. 7.18	2	R 7.10.12	
	外ヶ浜町	山崎結子	S56. 6.21	2	R 7. 4.23	
	蓬田村	久慈修一	S25. 8. 1	3	R 7.11. 8	工藤洋一
西郡	鱒ヶ沢町	平田衛	S34.11. 1	2	R 7.12.26	加藤隆之
	深浦町	吉田満	S28. 9. 9	4	R 6.12.20	佐藤洋一
中郡	西目屋村	桑田豊昭	S32. 1.11	1	R 7. 2.20	
南郡	藤崎町	平田博幸	S32. 6. 2	3	R 5.11.19	五十嵐晋
	大鰐町	山田年伸	S27. 3.11	3	R 4. 7.21	
	田舎館村	鈴木孝雄	S12. 2.10	5	R 6.11.17	金枝尚明
北郡	板柳町	成田誠	S28. 3. 4	2	R 5. 4.29	村上孝夫
	鶴田町	相川正光	S28.10.29	2	R 4. 8.20	成田正利
	中泊町	濱館豊光	S34.10. 3	2	R 7. 4.23	横野彰吾
上北郡	野辺地町	野村秀雄	S38. 4.15	1	R 5.10.26	江刺家和夫
	七戸町	小又勉	S24. 1. 2	5	R 7. 4.23	高坂信一
	六戸町	吉田豊	S25. 3.28	8	R 6. 1.27	下田正幸
	横浜町	石橋勝大	S16. 9.27	1	R 6.12.11	
	東北町	長久保耕治	S47.11.14	1	R 7. 4.23	沼尾啓吉
	おいらせ町	成田隆	S26. 2. 4	2	R 4. 3.25	小向仁生
	六ヶ所村	戸田衛	S22. 1.28	2	R 4. 7. 6	橋本晋
下北郡	大間町	野崎尚文	S30.11.17	1	R 7. 1.18	
	東通村	畑中稔朗	S37. 7.14	1	R 7. 4.12	
	風間浦村	富岡宏	S37. 4.27	2	R 7. 2.18	
	佐井村	樋口秀視	S26. 4.10	2	R 4. 4.26	田名部二郎
三戸郡	三戸町	松尾和彦	S38. 5. 9	2	R 6.12.15	馬場浩治
	五戸町	若宮佳一	S41.12.30	1	R 5. 6.26	大久保均
	田子町	山本晴美	S39. 4.10	3	R 6. 1.14	福田博実
	南部町	工藤祐直	S30. 5.22	6	R 4. 2.11	佐々木俊昭
	階上町	荒谷憲輝	S45. 4.24	1	R 7.12.23	
	新郷村	櫻井雅洋	S27. 5.25	2	R 7. 5.28	横田堅悦



問い合わせ先 蓬田村ふれあいセンターよもぎ温泉
TEL 0174-27-2170

寒い冬は、よもぎ温泉で温まりませんか？平成29年のリニューアルで誕生した「源泉100%の湯」では、保温・美肌・デトックス効果のある温泉成分をたっぷりと吸収できます。また、大浴場やヒバを使用したサウナのほか、ゆっくりとおくつろぎいただける大広間などもあります。どうぞお気軽にお立ち寄りください。

- 開館時間 午前9時～午後9時
- 休館日 毎週火曜日
- 入浴料 大人350円／小・中学生140円／幼児60円

「源泉100%の湯で疲れを癒やしませんか？」よもぎ温泉

いまが旬!

よもぎたむら

蓬田村

東津軽郡



問い合わせ先 鱈ヶ沢町役場 政策推進課
TEL 0173-72-2111

ヒラメの旬は身が締まる冬。まさに今が食べ時です。

「鱈ヶ沢ヒラメのツケ丼」は、たんぱく質豊富で繊細な味わいのヒラメを、各店舗で趣向を凝らしたタレに漬け込み、白いご飯の上にとっぷりと乗せた贅沢な一品です。町内飲食店やスーパーなど12店舗で提供していますので、ぜひ食べ比べてみてください。

詳しくは町観光ポータルサイト「あじ行く？」をご覧ください。

「30万食突破！」鱈ヶ沢ヒラメのツケ丼

いまが旬!

あしがさわまほ

鱈ヶ沢町

西津軽郡



問い合わせ先 中泊町メバル料理推進協議会
(水産商工観光課内)
TEL 0173-57-2111

中泊町の新・ご当地グルメ第2弾「相撲めし」。現役関取の「宝富士」と「阿武咲」を輩出した相撲の町ならではの、とことん相撲にこだわった「中泊メバルちゃんこ鍋」を食べれば、しばれる冬もポカポカ&ウマウマ♪ぜひ、ご賞味ください。(全店税込み1,800円)

- 提供店 ピュアレ스토랑、
くつろぎダイニング哲、
しじみ亭奈良屋

「これからの季節にピッタリ！」中泊メバルちゃんこ鍋

いまが旬!

なかとまりまほ

中泊町

北津軽郡



問い合わせ先 横浜町役場 企画財政課
TEL 0175-78-2111

横浜町は海や山に囲まれた自然豊かな田舎町です。5月には町の代名詞である菜の花が咲き誇り、毎年県内外から約2万人の観光客が集まる一大イベント「菜の花フェスティバル」が開催されます。菜の花フェスティバルでは、人気の「菜の花マラソン」、「菜の花大迷路」をはじめ、「撮影会」や郷土芸能の「野外コンサート」、菜の花を使った商品の即売会など、様々な催しが2日間で行われます。

「笑顔紡ぐ黄色い絨毯」菜の花フェスティバル

いまが旬!

よこはまほ

横浜町

上北郡

いまが旬!

おいらせ町

おいらせまち

上北郡

冬の使者「白鳥」を見に来てください。

冬の使者である白鳥が今季も下田公園園木堤にきています。

白鳥の飛来地として有名な間木堤は、シーズンになると多くの白鳥が飛来します。白鳥を間近で観察することができ、また、白鳥以外にも多くの野鳥を見ることができます。

ぜひ、白鳥を見に遊びに来てください。来られる際は、防寒対策と感染症対策を行ったうえで、社会的距離の確保や手指消毒等にご協力ください。



問い合わせ先 おいらせ町役場 商工観光課
TEL 0178-56-4703

いまが旬!

大間町

おおままち

下北郡

最高級のマグロ

本州最北端、大間町の大間マグロは、旬の時期は冬です。2019年、築地市場では、3億3360万円のマグロが誕生しました。

最高級のマグロが水揚げされる地で、ぜひ脂ののったマグロをご賞味ください。



問い合わせ先 大間町役場 産業振興課
TEL 0175-37-2111

いまが旬!

南部町

なんぶまち

三戸郡

新しい自慢の鍋「南部太ネギと菊ボールの鶏鍋」誕生

鍋条例の町南部町に、令和3年2月に誕生した新しい鍋。料理家栗原心平さんが監修し、伝統野菜「南部太ネギ」や特産の食用菊を丸めて揚げた「菊ボール」が鍋の主役。ヘルシーで栄養満点な自慢の鍋は、12月～3月末まで土日祝限定で、農林漁業体験実習館チェリウスで提供。価格も税込み1,000円とお手頃です。是非ご賞味ください。



問い合わせ先 南部町農林漁業体験実習館チェリウス
TEL 0178-76-1001

●お知らせとお願い

「あおり町村自治」は、会務活動状況及び災害共済諸事業の啓発事項、県市町村総合事務組合及び内部団体の活動状況のほか、町村長の紹介及び各町村の特集記事等を掲載し、3カ月に1回季刊発行しています。

本ページの「町村トピックス いまが旬!」は、各町村の時期、季節の旬の情報をPRするコーナーで、イベント、観光スポット、施設、特産品、町の話・出来事などが満載!

各町村で、本紙への掲載希望事項等がありましたらご連絡ください。また、表紙写真や関連記事等掲載依頼の際は、ご協力をよろしくお願いいたします。



掛金が一律！ 等級制度がありません！

自動車共済

いつでも申し込み可能

共済契約できる自動車

- ① 共済契約者の所有する
- ② 共済契約者と同一世帯に属する親族（同居の親族）の所有する

- 自家用普通・小型乗用自動車
- 自家用軽四輪自動車
- 自動二輪車
- 原動機付自転車

共済掛金と共済金額

組合員のニーズに合った選択ができるよう、共済金額はA型とB型の2類型です。

共済金額		用途及び車種区分	共済掛金額（年額）			
			自家用普通・小型乗用 小型貨物車（660cc超）	自家用軽四輪乗用・ 貨物車（660cc以下）	自動二輪車 （125cc超）	原動機付自転車 （125cc以下）
A 型	対人賠償	無制限	30,000円	19,000円	17,000円	12,000円
	対物賠償	1,000万円				
自損事故損害	1,500万円					
限定搭乗者傷害	500万円					
B 型	対人賠償	無制限	33,000円	21,000円	20,000円	14,000円
	対物賠償	無制限				
自損事故損害	1,500万円					
限定搭乗者傷害	1,000万円					

※無共済等自動車損害共済・他車運転特約も自動付帯 ※自賠責保険と共済金の一括払も実施しています。

加入推進に理解と協力を

災害共済関係事業地区別加入推進事務打合会

.....

本会は十月十五日、関係市町村及び一部事務組合などを対象に、災害共済関係事業地区別事務打合会をウェブ会議形式で開催した。参加者は十三団体から五十四名。

打合会では、本会の各共済事業の幹事会社である損害保険ジャパン株式会社及び日本生命保険相互会社、本会事務局が本会共済事業の加入推進への理解と協力を呼び掛けた。

また、更新時期を控える任意共済と個人年金共済は、事務局が更新時の留意事項について記入例を示しながら説明した。

研修事項

- 任意共済事業・個人年金共済事業について
日本生命保険相互会社 青森支社 中岡法人職域部長、島村氏
- 任意共済事業・個人年金共済事業 更新時の留意事項について／全国町村職員生協 火災共済及び自動車

.....

共済について
本会事務局

- 災害対策費用保険制度・総合賠償補償保険制度について
損害保険ジャパン株式会社 青森支店青森支社 田中氏 株式会社千里 土岐所長

- 全国自治協会 公有物件災害共済事業について
本会事務局

徴収実務への理解を深める

市町村税務徴収研修会

十月二十二日（金）、県市町村税滞納整理機構は令和三年度市町村税務徴収研修会を開催した。出席者は、研修会場（県共同ビル）三人、リモート参加が四十四人の計四十七人。

研修会では川崎機構長のあいさつの後、本機構の高橋専門員が「特殊事情を有する不



動産公売について」、福井専門員が「徴収担当五年目の実感」（元債権回収担当者の成果と反省）と題して説明した。



- 自動車事故処理について
本会事務局



確かな安心を！いつでも申し込み可能 火災共済

■共済契約できる物件

- 共済契約者の所有する居住用建物およびその建物内にある動産
- 共済契約者と同一世帯に属する親族が所有し、かつ、共済契約者が現に居住する建物およびその建物内にある動産

■共済掛金と共済金額

共済掛金（年額）は共済契約1口（10万円）につき60円です。

契約額の最高限度は600口（建物400口・動産200口）で、6,000万円（風水雪害は450万円）を限度に補償します。

共済契約の最高限度額			
区分	口数	共済金額	共済掛金
建物のみの場合	400口	4,000万円	24,000円
動産のみの場合	200口	2,000万円	12,000円
建物と動産を併せた場合	600口	6,000万円	36,000円



講師の佐久間智之氏

本年度は十月二十一日、元埼玉県三芳町職員で、現在PR DESIGN JAPAN株式会社代表取締役の佐久間智之氏を講師に迎え、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からZOOMによるウェブ会議形式で行い、二十

「伝わる広報紙」を考える

広報広聴担当者研修会

本会に事務局を置く県広報広聴協議会では、例年、市町村の広報広聴担当職員としての知識及び技術の向上を図ることを目的に、県市町村広報広聴担当者研修会を開催している。

八団体から三十八人が参加した。

研修内容

研修では、佐久間氏が「住民に伝わる広報デザインと情報の届け方」と題し講演した。講演は、「情報発信とは何か？」という軸で進められ、必要な情報がきちんと住民に伝わるようにするための心構えや、フォントの選び方、紙面レイアウトのポイントなど、すぐに実践できる内容まで多岐に渡った。

また、「コロナで見た自治体広報の課題」のトピックでは、

行政が伝えたいことと、住民が知りたいこととのズレが生じることで、誤解や苦情が発生してしまうことから、広報の果たす役割の重要性が説明された。

中には、佐久間氏が公務員として勤務していた間に取り組んだ事

例の紹介もあり、「広報の内容の見直しにより、例年多くの問い合わせがあった事業の問い合わせをなくすことができた」、「広報の内製化により六百万円の削減になった。」というエピソードが語られた。

研修後のアンケートでは、「作ることが目的になってしまっていたことに気付いた。住民が手に取りやすく、読みたくなるような広報づくりをしたい。」「ちょっとしたテクニックで伝わりやすさが大きく変化することが分かり、大変勉強になった」といった感想が寄せられた。

また、研修時間が約一時間半と、限られた時間での講習となったため、写真の撮り方などのカメラのテクニックや、ソーシャルメディアのリスクマネジメント等、触れられなかったトピックスもあり、参加者からは「もっとお話を聞きたかった」「SNSの活用について知りたい」などの意見も上がった。

西目屋村長

くわ た
桑田

プロフィール

村議会議長。
現在1期目。

とよ あき
豊昭



随 想

第52話

住民が心豊かに 毎日を過ごせる村に

私は、山あいの小さな村の農家の長男として生まれ、当然のように農業を継ぐべく、農業高校、青森県りんご試験場実習生を経て就農することとなりました。

当時は、まだ若く「楽しければよい」と毎日を過ごしていたと思います。その後、機会があり青森県の事業でありました農業青年海外派遣研修に参加させていただき、二十一日間、県内の多くの先輩方と行動を共にし、親交を深めることができました。今でも年に一回の会合を開き地域の情報交換を行っています。



村役場周辺全景

私は、農業を営む傍ら農閑期の冬場は季節作業員として仕事をしていました。東京での水道関係の建設会社、群馬県上野村でのダム関連のトンネル工事等に従事。その間、故郷の青森ではりんご台風、県外では阪神淡路大震災やオウム真理教による地下鉄サリン事件等があり、救援復旧や被害防止対策に関わることとなりました。

特に阪神淡路大震災では、倒壊した家屋やメディアだけでは伝えきれない現場の悲惨な状況に、やりきれない気持ちで作業していましたが、そんな中で老婦人が出してくれたカップに入ったコーヒーの温かさにほっとし、力強く生活する人たちの優しさやたくましさを感じました。

その後は、農業委員・議会議員として農政・村政に関わることとなり冬場の仕事はなくなりりましたが、当時のことは私にとって後の人生に係る

貴重な経験となっています。それでは西目屋村について少しお話しします。

当村は、自然豊かな山間地に位置しております。岩木川の源流でもあり白神の山々から流れ出する豊かな恵みは津軽平野を潤し、やがて日本海へと注がれます。

観光で本村を訪れる方々からはよく「空気がおいしい」と言われます。この村に生まれ育ってよかった。あらためてこの地の素晴らしさを実感しています。

今は、子供の頃のように川で泳ぎ、魚を捕って川原で焼いたり、ジャガイモを茹でて食べたり出来ないけれど、今思うと良い時代を過ごせたなと思っています。

県内一の小さな村で少子高齢化や若者の都会への流出等、厳しい現実ではありますが、「住民の方々が心豊かに毎日を過ごせる」これが私の願いであります。

今年度より、村は有害駆除した熊の肉を活用したジビエ料理の提供を始め、お客様より好評を得ております。また、かつて村の主要産業であった



熊鍋

目屋炭も復活し、道の駅での販売のほか、ふるさと納税の返礼品としても利用されております。コロナウイルスの影響により利用客が減少した水陸両用バスも、新年度はコロナが終息し利用客が復活することを大いに期待しております。

機会がございましたら、「世界自然遺産白神山地 悠久の森 源流の里 にしめや」へおいで下さるよう村民一同お待ちしております。



勢いよく入水する水陸両用バス